

第13回加西市公共交通活性化協議会

日時：平成25年6月21日(月)
14時00分～15時49分
場所：加西市役所1階多目的ホール

【開会】

○事務局 失礼いたします。定刻がまいりましたので、ただいまから第13回加西市公共交通活性化協議会を開会いたします。

委員の皆様には、公私ご多忙の中、また足元の悪い中でご出席くださりましてありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、当協議会の会長であります副市長より挨拶申し上げます。

○副市長 皆さんこんにちは。本日お集まりの皆さま方におかれましては、多忙の中、また雨の中お集まりくださりましてありがとうございます。また、今年の3月には2件の協議議題につきまして書面議決というような形を大変失礼ながら採らせていただきましたが、皆様のご協力によりまして議題の承認をいただくことができました。この場をお借りしまして重ねてお礼申し上げます。

さて、本日の協議会におきましては、前年度決算や今年度予算等の議題のほかに加西市公共交通総合連携計画の見直しについても協議に願うこととなっております。この連携計画は、平成21年から5年間の期間で策定しておりまして、今年度には平成26年度から5年間の計画をつくっていくという運びになっております。加西市を取り巻く情勢は常に刻々と変わっておりますが、社会情勢や交通事情などの現状を総合的に把握・分析して、的確に課題解決を図っていくための方策を講じる必要があると思います。あわせて、現行の連携計画を検証しながら、よりよい次期連携計画へ反映させてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そして、平成24年度におきましてはコミバスのルート変更、ダイヤ改正等を行いまして、利便性を向上させたこと、ふるさと加西観光大使でありますねっぴ〜をコミバスにラッピング行いまして、ねっぴ〜号という名づけをさせていただきました。市民への愛着と認知度を高める効果の一助にはなったんだろうというふうに思っております。

また、はっぴーバスにつきましては2年間の実証運行を終えまして、ことしの4月から本格運行へと移行しております。これまで受託事業者さんが、地域に密着した訪問活動、啓発活動などを地道に行っていただいております。皆様の温かいご支援のたまものと考えておりまして、徐々に乗者数もふえているというような現状もございます。今後における課題もございますが、関係者の皆様の協力体制を密にして、よりよきものへと発展することができるよう努めてまいりたいと思っております。今後とも、市民、そして交通事業者、行政の三者が密接に連携を保ちながら、公共交通のあり方を協議していく必要があると思っております。

安全で安心な公共交通、住民ニーズに即した公共交通として充実させるため、積極的な議論、ご協力、あるいはご支援を賜りますようお願い申し上げます。開会の挨拶させていただきます。

○事務局 ありがとうございます。次に、本日の資料の確認をさせていただきます。先日事前送付させていただいた資料としまして、式の次第、事前配布資料一覧、この2点につきまして事前に郵送いたしました。不足しているところはないでしょうか。もしお忘れであったり、不足している場合は事務局のほうへお申し出ください。

さらに、本日、机の上に配付としておりますのは、当日配布資料、座席位置を配布しておりますが、こちらについても不足等がございましたら事務局にお申し出ください。

以上が本日の資料となっております。よろしいでしょうか。

それでは、本日の出席の委員の皆様の紹介をさせていただきます。この3月に規則改正等もございましたので、若干委員の方々も変更になっており、異動等もございまして初めてご参加の方もおられるかと思っておりますので、当日配布資料の1-1となっております出席者名簿に沿ってご紹介させていただきます。

(省略：委員・オブザーバー紹介)

○事務局 異動等によりまして、おかわりなられました皆様につきましては、本日から当協議会の委員としまして就任いただくことになりました。どうぞよろしく申し上げます。

なお、この3月に書面議決によりまして承認いただきました改正後の規約を15ページの資料6というところに添付しております。念のためと思ひまして、本日の資料に添付させていただいております。よろしく申し上げます。

それでは、次第に基づきまして本日の会議を進めさせていただきます。この後の進行につきましては、議長によりお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

【協議事項】

(1) 平成24年度事業報告及び収支決算について

○議長 皆さん、足元の悪いところ、またお忙しいところ、第13回になりますけれども加西市の活性化協議会にご参集くださいましてまことにありがとうございます。冒頭、会長のほうからお話がありましたけれども、連携計画の見直しが予定されています。

ここの場というのは、コミュニティバスが中心となることが多くありました。

コミュニティバスというのは、はっぴーバスが主要な議題でありましたけれども、いよいよ本格運行を迎えたわけでありまして、連携計画を5年前に皆さんと一緒に策定いただいた連携計画もそろそろ見直しの時期に入ってきたということで、この地域にとって一番いい公共交通の形というものを考えていくということが、これからのこの協議会の大きなミッションであるかなというふうに思いますので、その点ぜひ皆さんもご協力いただき、ご議論いただければありがたいなと思います。

それともう1点、担当課が「人口増政策課」という名称にかわったこと。これは非常に意味があると思っています。

といいますのは交通の軸線、特に公共交通を中心に人口をどう配分していくか、あるいは張りつけていくかというのが、これからの社会的な非常に大きな地域の経営という意味で、それから人々の足を守るという意味でも重要な役割になってくると思います。それは、人口をいかに増加させるかということもそうですし、それから今住んでいらっしゃる人たちの利便性を高めるためにも、あるいは住んでいてよかったな、安全な生活をしていただくためにも、公共交通と人々の住まい方というのは切っても切り離せないということだと、非常にいい名前の担当課がご担当されているというふうに思います。そういうことも含めてこれから皆さんと交通とそれからまちをいかにつくっていくかという観点もすごく大事になると思いますので、ぜひそういう観点からもこれからの公共交通の活性化ということで、ご参集いただきご議論いただければありがたいと思いますので、何卒ご協力をよろしくお願い申し上げます。

そしたら、着席して議事の進行をさせていただいてよろしいでしょうか。

お手元の議事次第をごらんください。協議事項が4点ございます。まず、最初に24年度の事業

報告と収支の決算につきまして、事務局からご報告をいただきたいというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。

この1番の協議事項につきましては、事前配布資料の資料2、平成24年度事業報告及び収支決算（事前配布資料の2ページ、3ページ、4ページ）の資料を中心に、本日配布をさせていただきました当日配布資料の2-1（2ページと3ページ）を補足として説明させていただきます。

それでは、まず事前資料の資料2の2ページ、3ページ、こちらの見開きを開けていただくようお願いいたします。

○議長 着席していただいて。

○事務局 失礼します。まず2ページ、平成24年度事業報告及び収支決算ですが、こちら2ページのほうには24年度に行いました事業の報告として、主な内容を上げさせていただいております。事業の項目といたしましては、バス、乗り合いタクシー等の活性化再生に係る事業、その中でコミバスの再編及び新たな公共交通の導入、こちらの事業の内容といたしましては、その右端に書いておりますとおり、はっぴーバスの実証運行を協議会で行っております。こちら事業主体としましては、協議会、NPO法人の原始人会、加西親栄自動車様でやらせていただき、事業費としましては1,253万2,933円となっております。

一方、鉄道、路線バスの利用促進ということで行いましたのが、公共交通の利用促進事業、「ねっぴ〜はっぴ〜スタンプラリー」とバス停の整備、回数券の印刷等をさせていただいております。こちらは事業費としましては42万3,829円、合せて1,295万6,822円、事業のほうへ使っておるということをお知らせしております。

続きまして3ページ、こちらのほうは収支の内容をお知らせしております。上段が歳入になっておりまして、主な歳入といたしましては一番上補助金として、加西市から公共交通活性化協議会への運営費の補助金1,268万4,000円が主なものとなっております。

その他は、諸収入は受け取り利息、立替金です。立替金は、事業の説明にありましたはっぴーバスの実証運行の中で、はっぴーバスの回数券の運賃については一旦市の協議会へ入れていただいて、改めて運行費用をとして歳出いたしましたので、歳入と歳出に同額が立替金として表示されております。それらに合せて、前期の繰越額187万735円を合せて1,504万5,278円が収入の総額となっております。

一方、歳出のページの下段のほうですが、こちらのほうは運営費としまして事務費、報奨費、委託費をそれぞれ11万5,937円、6分万円、10万5,000円といたしております分と、事業費としまして先ほど2ページのほうでご説明させていただきました1,295万6,822円と、先ほどの歳入の部でありました立替金と同額の歳出をしております。合せて、1,372万7,009円となっております。差し引きが一番下に表示しておりますが、繰越額ということで131万8,269円となっております。

こちらの2ページ、3ページのほう、お金の動きを中心にご説明となっておりますので、少しわかりにくいかなと思われま。そこで事業についての補足資料ということで、4ページページには、利用促進として行いましたスタンプラリーのチラシと、ねっぴ〜号の乗り場の標柱頭をねっぴ〜号の乗り場であるということがよりわかるように、変えさせていただいた分の写真を入れております。

あわせて、当日配布資料の2-1、資料2ページでございますが、こちらのほうも参考として見ていただけたらと思います。こちらにつきましては直接協議会の決算とは関係はない部分もあるんですけれども、加西市が今24年度中に公共交通に支出した補助金を一覧として表示させていただ

ております。こちらの表の一番下には、加西市公共交通活性化協議会への補助金ということで、先ほどの補助金額が表示されております。その他、コミュニティバスの負担金ということで出しているものですか、バス対策補助金ということでいわゆる路線バスへの補助金、あるいは北条鉄道の運営費の補助金ですか、北条鉄道の設備や整備費の補助金を、それぞれ記載しております。こちらのほうは、加西市の公共交通全体を見ていただくのに、少しでもお役に立てばということで今回は付けております。

次に、3ページで資料2-2となっている分につきましては、先ほどの「ねっぴ〜はっぴ〜スタンプラリー」の実績報告として、より詳細なものをつけております。そちらのほうを概要の欄に表示しておりますとおり、春休みの期間3月20日から4月7日、少し年度をまたいでしておりますが——において実施させていただいております。流れといたしましては、期間中に、ねっぴ〜号、はっぴーバス、北条鉄道に乗りさせていただいてね、ねっぴ〜号とはっぴーバス、もしくはねっぴ〜号と北条鉄道のスタンプを2つそろえていただいた方に、くじ引きで商品を差し上げるというようなことで実施いたしました。

広報の方法としましては、広報かさい3月号への掲載や、市ホームページやまちづくり協議会のフェイスブックへの掲載をして情報を発信いたしました。その他チラシ等も作成いたしまして、配布をし、周知しました。利用実績としては、最終そのスタンプを2つ集めていただいて、交換まで来ていただいた方の数となっておりますが、52名の方にご参加いただいた結果となっております。

協議事項の1番につきまして、資料の説明は以上とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長 ありがとうございます。これにつきまして監査をしていただいておりますので、今来られたところでまことに申しわけないんですけども、監査委員のほうから監査報告の結果をお願いできますでしょうか。

○A委員（監査） 先ほど、市民会館のほうで防犯協会の会合がございまして、ちょっと遅れまして申しわけございません。先般6月4日、この市役所4階会議室においまして、商工会議所の後藤専務理事と2人で会計監査をいたしました。24年度の事業内容及び支出、収支計算を帳簿並びに領収証等に基づき監査したところ、適正と認められましたので報告いたします。

以上でございます。

○議長 どうもありがとうございます。ただいま、昨年度の事業報告、それから収支決算の報告、そして監査の報告をいただきましたけれども、これにつきましてご質問、あるいはご意見ございましたらよろしく願いいたします。

○B委員 ねっぴ〜はっぴ〜スタンプラリーの事業について、うちのはっぴーバスとコミュニティバスのねっぴ〜号、北条鉄道でやらしていただいたんですけども、はっぴーバスに乗られたお客さんは、ねっぴ〜号のほうに乗ろうとしたときに、ここに印刷されている紫色のねっぴ〜号のバスではなしに、エンジというか、ちょっとオレンジ色がかかったバスが走っておりまして、そちらのほうに乗ったときに、そのスタンプを押してもらえないということがあったみたいで、要はそれはねっぴ〜号ではないのかということだったんですね。コミバスの路線にねっぴ〜号以外のバスが走っていたみたいなので、そちらのほうはちょっとどういうことだったのかいう、苦情をいただいたので、意見として上げさせていただきます。

○議長 その辺は、事部局どういうことか把握されてますか。

○事務局 市のコミバスをねっぴ〜号というふうに名づけて走らせていまして、当市のほうで2台を去年ラッピングしております。その2台でコミバスすべてを運行することができればいいんですが、

なかなかその他の路線とかの都合上、運転手さんと車の運行の問題で、必ずしもそう出来ていなかったところは申しわけなかったと考えております。

これにつきましては、コミバスねっぴ〜号というところを極力ねっぴ〜バスで走らせていただくよう受託業者さんに協力をお願いするようし、他方、物理的に無理なものは、スタンプを通常のねっぴ〜号以外のバスで走る場合にも、スタンプのみは最低限運転手さんをお願いする対応をしたいと考えています。失礼いたしました。

- 議長 ちょっと確認なんですけども、はっぴーバスとそのねっぴ〜号が走っているところと同じところを走っているけれども、色が違うバスが走っていて、本来ならばスタンプを押してもらえはずだったけれども、押してもらえなかったということですかね。
- 事務局 そうです。要はコミバスとしてダイヤを組んでいるものすべてを2台ラッピングバスで網羅できればこんな問題は起こらなかったんですけども、ちょっとそこらが運営上きれいに回らなかった点がございましたので、こういった事態になっているものと聞いております。先ほどお話ししましたように、今後はそのあたりを対応すべきと考えておりますので、ご理解いただけたらと思います。
- 議長 よろしいですか。きっとバスの問題とドライバーの皆さんにも周知徹底ができていて、うまくできていたということですかね。
- 事務局 従来の神姫バスカラーのバスを使ってコミバスを走らせている路線が幾らかあったと。それは、カラーは違えども市のコミバスですので、その運転手さんにはねっぴ〜号と同じスタンプをお持ちいただければ、少なくともそういうことにはならなかったかと思います。コミバス路線は、極力ねっぴ〜号を走らすこと等含めて、今後とも調整を行っていきたいと考えております。
- B委員 すみませんそこなんですけれども、このお客さんのお話を聞きますと、日によってねっぴ〜号がどの時間帯に走ってるのかというのがわからないみたいで、同じ時間帯であっても日によって紫色のバスが走ったりとか、オレンジ色のバスが走ったりして、せっかくお子さんはこのはっぴーバスに乗ってねっぴ〜号に乗り継ごうとしたときに、いやこのバスはスタンプを押せないよと言われ、1台乗り過ごしてしまって、次のバスを待たされたということがあったみたいで、そのあたりのちょっと注意してやっていただきたいなということです。
- 議長 2台しかないとやりくりがうまくいかないとか、この時間帯というのを決めるのも、曜日や時間の関係とかの組み合わせで、難しかったと思うんですね。
- B委員 ただ、このチラシの中にはそういうことが書いてなかったの。
- 議長 全然書いてない、そうですね。ですから、ぜひ受託されてる皆さんもご協力いただいて、利用が増えて喜んでもらうと次の利用につながりますので、ちょうどこういう場で皆さん意見を出し合って、よりよい方向に向くように、ぜひご協力をいただければと思いますし、加西市さんもよろしくお願ひしますということで、次はちゃんとやりましょうということですね。よろこんでまた乗っていただけるような仕組みで、皆さんよろしくお願ひいたします。
- C委員 神姫バスでございますが、先ほど加西市さんの話もありましたとおり、2台の中で運行しておりますが、ねっぴ〜号で運行できない時間帯もあります。これは、日によってごろごろ変わっているわけではなくて、この便はねっぴ〜号で走る、この便は加西市の神姫バスカラーで走るという系統は組んではおります。ただ、詳細については私も一緒に詰めたわけではなかったの、把握していなかった点もありますけれども、次回実施する際は、コミュニティーバス路線としての部分で、スタンプを押せるようさせていただくということで思っております。よろしくお願ひします。
- 議長 どうもありがとうございます。ほかにこの件、事業収支の計算ですね、ご意見、ご質問ござ

いますでしょうか。お願いします。

○専門委員 今の件は、もし十分手だてがつくせてなくて申しわけなかったということでしたら、コミバスの中にごめんなさいというのを貼っておいてもいいのかなというふうに、ちょっと思いあます。これが1つです。

それからもう1つは、先ほどご説明いただいた事前配布資料の2ページ資料2に、24年度の事業報告がありますが、例えば当日配布資料の5ページの今のスタンプラリーの話ですね。これも主催は協議会主催というふうになっております。ちょっと先の3ページでしたか、それでちょっと先へ行ってしまうんですが、4ページに25年度の事業計画案というのがこの後で出てきて、ここには事業予算を伴わないいろいろなこともあって、つまりこの協議会が、4ページで見ると25年度に何をやるかということが全部書いてあるわけですね。と同じように、事前配布資料の24年度の事業報告のところも、事業としてお金がかかったかからないは別にして、こういうことをやりましたよという一覧をつくっていただくと、後で見て非常にわかりやすいんじゃないかなというふうに思います。

ですから、このスタンプラリーのこともこの協議会が主催としてやっておりますし、それからネットワーク計画の検討というのもやっておりますしというのがあろうかと思しますので、後で見て24年度この協議会として何をやったのかということが一覧できるようなものがあると、非常にいいのではないかと。だから、この資料はこれでも結構ですけども、例えば議事録で補足しておいていただくなりすれば、後から見て24年度はこういうことを協議会やったんだと、わかりやすくいいと思います。

○議長 ただいまご意見は、一応これについてはかまわないけども、もう少し追加をして皆さんがわかるようにしておきましょうということによろしいですか。

○専門委員 そうですね。

○議長 ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問ございましたら。

○D委員 ちょっと確認なんですけど、公共交通の活性化再生総合事業ということで始まったと思うんですけども、この今の市の補助金のうち2分の1は国の補助としてまだこの年度では出ているというふうに理解していいんでしょうか。もう単独になってるんでしょうか。

○議長 事務局、お願いします。

○事務局 ちなみにその負担金の部分によって割合は違うんですが、今のご質問はどの時点のお話は理解したらよろしいんでしょうか。

○D委員 ここに書かれてある歳入のところの補助金、市補助金というこの1,268万4,000円というのは全額単独負担なのか、このうち国の補助というのがあるのかどうかという点なんですけど。

○事務局 この24年度決算でいいます市の補助金1,268万4,000円というのは、これにつきましては一部フィーダー補助という形で後日補助されるのがございますが、基本的には、市の単独の財源ということで。

○D委員 わかりました。ありがとうございます。

○議長 よろしいですか。ほかにご質問、ご意見ございましたら。

じゃ、ちょっと私も1点だけ。はっぴーバスについてなんですけども、利用者の状況について、最近のことでいいですけども、大体どういうふうになっているかを、24年度からそれから25年度も入っても結構ですので、概要を教えてくださいませんか。

○B委員 事前資料を用意していませんので、ざっくりしたものでよければ。

○議長 それでいいですよ。

○B委員 去年の4月からダイヤ改正をしたんですけれども、ダイヤ改正の後すぐというのはやっぱり利用者の方が老人の方が多いので、なれないダイヤでちょっと戸惑ったみたいな感じで、それまでの利用者数より落ちてしまって、月でいいますと400人に満たないぐらいの月平均で大体12月ぐらいまでに来てましたが、年を明けて平成25年になると少し人数が増えてきて、大体400人を超えて450人ぐらいになり500人ぐらいになりというので、一番最新の集計では大体月で520人か30人ぐらいまできたので、利用としては、利用者の数はだんだんふえているかなという印象です。

○議長 ありがとうございます。幾つか増えている理由は考えられるのですが、昨年の夏に原始人の会で実施いただいた訪問活動の成果がでていると考えられますね。またきちんと分析して、次の活動につなげていただくとありがたい。よろしくお願いします。ほかにご意見、ご質問ございませんでしょうか。よろしいですか。

では、協議事項1について皆さんのほうからご承認いただけたということでもよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○議長 ありがとうございます。

(2) 平成25年度事業計画及び予算について

○議長 では、協議事項の2ですね。今年度、平成25年度の事業計画と予算について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。協議事項2についても事前配布資料と当日配布資料、それぞれ見ていただくこととなります。事前配布資料の資料3(6ページ、7ページ)が平成25年度の事業計画案及び収支予算案でございます。こちらにつきまして説明をさせていただきます。6ページには事業計画を挙げておりますが、額が2つ合わせましても350万円と、24年の決算から比べますと大きく減っております。こちらは、ご承知のとおりはっぴーバスが協議会での実証運行を終えまして、市と直接契約をしておりますので、その分が協議会の予算としては減っておることになっております。

そして、25年度の事業計画といたしましては、一番上に挙げておりますのが、加西市の公共交通総合連携計画の見直しをさせていただくための予算です。

そして、2段目が、昨年24年度に行いましたスタンプラリーのような利用促進を含めましたバス停の整備や時刻表の作成等を行う分として、100万円置かせていただいて、合わせて350万円となっております。

7ページは収支予算の歳入と歳出をそれぞれ上げております。こちら、額が減っておりますのははっぴーバスの本格運行が始まったことによるものです。中身といたしましては、一番上の負担金は土地の賃借料の加西市負担分ということで、9万1,000円、一旦加西市から預かってその後協議会として支払う土地の賃借料についての負担金です。補助金は、加西市公共交通活性化協議会の運営費等の事業補助、277万5,000円、そして諸収入ということで受取利息を731円計上させていただいており、前期の繰越額131万8269円と合せまして、歳入は409万4000円で作成いたしております。

一方、歳出の分につきましては、運営費事務費に30万円、報奨費に15万円を置かせていただいて、事業費としましては先ほど6ページの350万円、予備品に14万4000円を置かせていただいて、合計409万4000円を歳入歳出同額の予算を置かせていただいております。こちら

が資料3の中身になります。

当日配布資料といたしまして、配布しております分にて補足の説明をさせていただきます。4ページの資料3-1、こちらのほうが平成25年度の事業予算案ということで、予算を伴わない協議案件等をまとめてこちらのほうへ上げております。こちらのほうは、1番目に上げておりますのが加西市公共交通総合連携計画改定事業、こちらの協議の概要といたしましては、まず、第13回協議会において、基本方針をご検討をいただいて、その後次の協議会では次期事業プログラムの検討などをしていただければと考えております。そして、年度内には連携計画全体の改正案を見ていただいて、ご意見等をいただけたらと考えております。

その次、生活交通ネットワーク、事業項目にネットワーク計画と上がっております分につきましては、平成26年度の計画について今回の協議会で検討をいただく予定になっております。こちらのほう、次の協議内容となっておりますので、お願いいたします。

次は、はっぴーバス本格運行に関する助言ということで、こちらは今年度開催します協議会の中で、随時こちらのほうから資料の提供をさせていただきますので、本格運行に移行しましたはっぴーバスの状況を確認いただいて、助言等をお願いいたしたいと思っております。同じく、ねっぴ〜号につきましても状況をご確認いただいて、助言、検証をいただけたらと考えております。

下から2番目、地域協働推進事業計画としてあげております分は、内容のところにも書いておりますとおり、地域ぐるみによる利用促進、公共交通サービスの情報提供等の取り組み、を継続的に実施するというを計画策定したいと考えております。こちらのほう、この計画を策定することによって、国庫補助金を受ける可能性もあります。ご協議いただいた上で、この先数年間の計画を立てることができれば、計画に沿って利用促進等をやっていきたいと考えておりますので、こちらも今年度中にはご検討いただけたらと考えております。

一番下、実施事業に関する検証としておりますのは、その他協議会で事業をさせていただいて、単年度の先ほどのスタンプラリーのようなことも考えておりますので、その効果を検証していただいて、よりよいものになるようにご提案等をいただいて協議できればと考えております。

5ページのほうに上げておりますのが、今年度実施を考えておりますスタンプラリーの企画書になっております。こちらのほうは24年度が春休み期間中と、少し短かったので、今度は夏休み期間7月20日から9月1日までの期間で実施を考えております。まだこちらのほうは企画の段階ですので、具体的な各事業者さんへのお願い等はまだの状態でございますけれども、こういう企画を考えておるといふことを見ていただいて、ご意見等いただき、よりよいものとして実施していきたいと考えております。

25年度の事業計画の資料につきましては、以上のような内容となっております。よろしくご審議のほどお願いいたします。

- 議長 ありがとうございます。ただいまご説明がありました協議事項の2でございますけれども、これにつきましてご質問、ご意見ございましたらよろしくお願いいたします。
- E委員 補足をさせていただきたいと思っております。事業の説明の中で国の補助金という言葉が出てきました。実は地域公共交通確保維持改善事業という予算が変わったわけでございますけれども、今年度、以前から法定協議会をお持ちの会議の中で、その連携計画を見直して地元の人と一緒に、いろいろバスを活性化していこうじゃないかという取り組みに対して、補助金が今年度から出るようになっております。それで、その補助金を視野に入れて連携計画も見直しをされるって方向だと思われるんですが、そういう取り組み、具体的な取り組みを決めていけば2年間一定の補助要件を満たすようであれば、補助金が出るということと、あわせて、例えば特例措置というのがござ

いまして、今まで走っているコミバスで新規制要件だけで入れなかった、補助がもらえなかったコミバスというのも、実はその活性化を行うのとセットであるならば、特例として認められるという制度に変更されております。ただ、まだできたての制度でございますので、年々ちょっと変わるものですから、慎重にその辺は見ながらうまく使っていくという必要はあろうかと思いますが、そういう部分を視野に入れながら連携計画を策定されるのであれば、国庫の補助金を取り組みに対しても、ないしはコミバスに対してもお金が出るようなスキームになったということだけちょっとご紹介をしておきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 ありがとうございます。ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。はいお願いします。

○D委員 すみません、ちょっと事業計画に関連してお尋ねしておきたいんです。これまでずっと議論をされてきてると思うんですけども、はっぴーバスもデマンド型の公共交通ということで考えていこうという計画だったと思うんです。例えば丹波市なんかの乗り合いタクシー型のデマンド交通という方式もありますし、いまこの加西市ではNPO法人が、はっぴーバスという形で運行されていると思うんですけど、今後の加西市全体の公共交通の展望という意味では、ああいう丹波市がやってるような乗り合い型のタクシー制度というものは、視野にはあるのですか。例えばタクシー会社との連携なんかも要ると思うんですけども、そういうのはどうなのかなというふうに思うんですけども、私は、今後の計画かもしれないけれども、ちょっとお尋ねしたいと思うんですけども。

○議長 事務局のほう、よろしくお願いします。

○事務局 現在でも、加西市におきましては、公共交通の不便地域が存在している状況にあると認知しておりますので、住民ニーズと最も適した形態がどういう形か、住民たちにとって利便性の高い交通手段なにかというあたりを、地元との聞き取り会議であったり、そういうようなものを開きながら、その辺のニーズは把握していきたいというふうには思っております。そのニーズを満たす手法を含めて、次期連携計画の中ではうたっていく必要性はあろうかと考えておりますので、そのあたりを総合的に今後詰めていきながら、次期連携計画にそのあたりも選択肢をいろいろ用意する中で、うたっていくというふうに考えております。

○議長 はい、ありがとうございます。ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。

○F委員 失礼します。タクシー協会です。先ほどD委員さんからお話がございました。以前公金等の絡みもありまして、市の単独でやるということ、またいかにニーズのあるところへの利便性を高めるかという点は、一番次年度に向けてのポイントだとは思いますが、これまで全体的な鉄道と路線バスと、加えてコミュニティバス云々のチャンネルができたわけですけども、従来の当初計画の公共交通としてのタクシーというものは、まだ次の計画の中にどの程度入ってくるのかと。

現状でいうなら、路線を追いかける中で本当の高齢者が目的地に行きたいニーズに関しての組み込みがなかなかされていないのではないかというふうに思います。現状でいうなら、言うつもりじゃなかったんですけども、例えばはっぴーバスに今回もその予算措置がされるわけですけども、これ一人に対して、幾らの補助が使われるのかと。

反面、高齢者の中で必ず出てくる話なんですけども、いま障害者を含めて高齢者にチケットがございまして。担当する部署は違うと思うんですけども、それに対するチケットが、お1人に対する交付が年間ごくわずかでございます。せめてこの路線バスのおりと言わないですけども、何分の1かのお1人当たりの補助が使えれば、もっと高齢者が便利に移動できるようにのではなからうかなと。そのあたりも計画の一部にまたお考えいただけたらと思っておりますので、ひとつまたよろしく願います。

- 議長 いまのはご要望、ご意見ということで。事務局のほうも何かつけ加えることはありますか。
- 事務局 タクシーも含めて、現在加西市としまして障害者向けであったりする場合には、タクシーに対する手だても配慮しているんですが、まだ今後は高齢者福祉というふうな視点が公共交通と交わってくるといいますか、かさなってくるかと思しますので、連携計画を立てるに当たりましては、デマンド型であったりタクシーというツールも想定には当然入ってこようかと思われまので、今後の検討の中で加味していきたいと思います。

- 議長 ありがとうございます。ただいま、D委員から始まったお話というのは、今年度時期連携計画の見直しをやるという作業と非常に関連している話だと思うんですね。私、今の事務局の話聞きながら思ったんですけど、きょうの当日配布資料の2ページに、公共交通に対する補助金が平成24年度でコミュニティバスもそうなんですけども、全体に足し算すると、結構あります。

今お話があったようなタクシーチケットも福祉部局から出ているというふうなことであれば、加西市全体で少なからずのお金がいろんな形で公共交通をサポートするという意味で出ていると思うんですけども、次期連携計画ではそれをこれから5年先を見据えて、一番いい形にお金を、全体の額ももしかしたらこれが目いっぱいどんどん減っていくのかもしれないけれども、その枠組みの最適化というのが、どれが最適かというのはなかなか難しいかもしれないけれども、できるだけいい形で地域の人たちが利用していただけるような仕組みをつくっていくというのが、多分次期連携計画の重要な点だと思いますので、そういう点でまた皆さんも、お力添えをいただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

- F委員 つけ加えます。少なくとも交通圏が新たに言われる時代になっているんですけども、利用者のお1人の負担になりますか、それに対する補助がお1人どの機関であればどこまで補助ができるんだと。具体的な比較はできないですけども、本当に足に困られる方のタクシー利用に対して、ほかの機関からすれば本当にごく、何分の1やというのが現実だと思いますので、本当の利便性を考えた上での次年度の計算をしていただきたいなと思います。

以上です。

- 議長 ありがとうございます。はい、お願いします。
- 専門委員 今、F委員さんがご指摘いただいたことは、次の計画を考える上で非常に大事なところだろうと思います。それで、言葉尻をとらえるわけじゃないんですが、一番最後に1人当たり幾らというのも、その方がどういう方なのかと。

例えばバスを使って自由に行けますよという人なのか、自分で車を運転して行けますよという人なのか、いやそうじゃなくてやっぱりタクシーに来てもらわないといけないという、人によっても違ってくるだろうと思うんですね。

ですから、これまで全国どこの計画も、ともすれば平均的な住民に対してサービスをするように考えることが多かったんですけども、おっしゃったようにそれぞれの人にとって最も適した方法でサービスを提供しつつ、市全体としても今度はこれ納税者の側からどう負担をするのか。なるべく効率的にして、安い負担でいいサービスを提供したいということもありますので、そこはやっぱりポイントだろうなというふうに思いますので、やっぱりよく考える必要があると思えますね。

それで、タクシー補助についても部局は違うのかもしれませんが、やはりそのところを横断的に考えるというのが、大き過ぎない自治体のいいところだろうというふうに思いますし、関連の方もメンバーとしてのご参加もいただけたらと思いますので、ぜひそういうふうにご考えて、市民にとってこれが一番負担が少なくっていいサービスなんですと説明ができるようなものができるといいなと思えます。

○議長 ありがとうございます。もうまさに専門家のご意見ということでありがとうございます。ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいですか。

では、協議事項についても皆さんからご承認いただけるということでよろしいでしょうか。

ちょっとその前に、資料3-2ですね、きょうの配付資料のねっぴ〜はっぴ〜スタンプラリーをことしに夏休みにやりますということで、先ほど専門委員からお話がありましたけども、春休みにやってるときにちょっと調子が悪かったといいますか、十分な意思疎通ができてなかったということについて、B委員からもありましたけども、苦情があったということですので、これをやられる前にできるだけ早い時期に、ちょっと手違いがありましたというようなことはできるだけ知っていただかないと、また何かトラブルがあったらということで敬遠されるようなことがあると、せっかくこういう取り組みをやっても声が届かないという可能性がありますから、こういう理由でうまくいかなかったんですけども今回は改めますというのを事前に告知いただくなりしていただいて、この取り組みを進めていただけたらありがたいなというふうに思いますので、そういう点をちょっと含めて、今年度の取り組みを進めていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

ということ踏まえて、協議事項の2につきまして皆さんからのご承認をいただくということではいかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

○議長 ありがとうございます。では、協議事項2についてもご承認をいただいたということで、皆さんありがとうございます。

(3) 地域内フィーダー系統確保維持計画(国によるはっぴーバスへの補助金)について

○議長 続きまして、協議事項の3でございます。地域内フィーダー系統確保維持計画につきまして、事務局のほうからご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。こちらにつきましては、事前配布資料の資料4(8ページ)以降に生活交通ネットワーク計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)(平成26年度)ということをつくっております資料をもとにご説明をさせていただきます。こちらの中身は、はっぴーバスに対する国の補助金が、地域公共交通確保維持事業という中で、補助がいただけるんですけども、それに関しましてネットワーク計画を毎年度提出する必要があるございます。前年度も協議会の中で協議いただきまして提出をしております。それを26年度用に少し内容を改めまして、作成しておるものがございます。

基本的には継続の事業ですので、同じような内容になっています。8ページには目的や必要性、目標や効果ということで上げさせていただいております。中身は前年度とほぼ同じとなっておりますが、一部、例えば目的及び必要性の中で同地区の高齢化率はこの1番の囲みの中、下のほうにあります。こちら最新の数字にちょっと直させていただき、20%台だったのが31%まで上がってきているとか、そのような細かいところを少し直させていただいております。

9ページのほうには、9番として上から3つ目の囲みですが、協議会の開催状況と主な議論ということで、協議会でご議論いただいた内容を上げています。こちらに記載しております変更点については、訂正をお願いします。下の2つですね、第10回と第11回の年が間違っております。第10回につきましては平成24年5月21日、第11回につきましては平成25年にご協議いただいております内容となっております。こちらのほうは訂正の上で提出するよういたします。申しわけございません。

これ以降も、10ページにははっぴーバス各系統別での数値をあげております、11ページ以降

にも数値的なものをあげさせていただいております。これが、12ページまでが26年度分ということになりまして、13ページ以降、また同じような資料が出てきておりますが、こちら提出する際に26年度だけでなく、27年度、28年度と作成して予定を提出するようになっておりますので、同じような資料が繰り返し出てきておりますが、こちらのほうは資料の作成要綱に沿った形で、現状、現在の状況を報告するようになっております。

中身につきましては、詳細は省略させていただきますが、国庫補助を受けるために必要な提出資料であることをご理解いただき、ご審議いただけたらということであげさせていただいております。よろしくご審議をお願いいたします。

○議長 はい、ありがとうございます。ただいま協議事項3につきましてご説明いただきました。

これにつきまして、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。はい、お願いします。

○D委員 すみません、これも確認なんですけど、生活交通のネットワークという、はっぴーバスだけじゃなくてそれこそ北条鉄道とか今のコミバスとか、神姫バスであったり、タクシーであったりと、全体のネットワークだと思うんですけども、これはその国の補助等の関係ではっぴーバスの計画を地域内フィーダーという形で計画策定する必要があるからしているという意味で理解しているのでしょうか。

○議長 じゃE委員さん、お願いします。

○E委員 すみません、補助要綱上、生活交通ネットワーク計画といいましたら、おっしゃられるとおり鉄道とかいろんなモード、バス、あと離島の船とか、そういうのを包括的にやったものを生活交通ネットワーク計画といいまして、厳密に補助要綱上で言いますとおっしゃられたとおり地域内フィーダーの系統の確保維持計画ということで、コミバスではっぴーバスに限っての補助の計画だというふうに捉えていただけて結構です。これを将来的にこの協議会でいろんなモードを取り込んでやっていくんだとなると、それが本当の上での生活交ネットワーク計画になるという、そういうイメージでいただければ結構かと思います。

○D委員 よくわかりました。ありがとうございます。

○議長 ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。よろしいですか。ありがとうございますそしたら、協議事項3につきましても、皆さんからのご承認をいただいたものとさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○議長 ありがとうございます。

(4) 加西市公共交通総合連携計画の見直しについて

○議長 そしたら、最後の協議事項になります。連携計画の見直しについてということで、事務局のほうからご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。こちらにつきましては、当日配布資料の資料、ページで言いますと6ページ以降になっております。6ページには地域公共交通総合連携計画改定に向けた検討フローをということで、縦に必要であろうと思われる事項を並べております。一番上に加西市地域公共交通総合連携計画として、平成21年3月に策定しました現計画がございます。こちらのほうは、本日資料の一覧の中には入れておりませんでした。お手元のほうに旧の計画をカラーでコピーをさせていただいた分を置かせていただいております。こちらの計画が、5年目を迎えますので、26年度以降の計画を検討していくということで、このたびの検討フローになっております。

次その下で事業プログラムの進捗整理及び検証、また連携計画策定後の課題の把握、次期事業プ

プログラムの検討などをしていただいで、連携計画の改定案を策定していきたいというふうに考えておるといふフローをあらわしております。

7ページ、こちらのほうはまだ作業が始まったばかりで完全なものにはなっておりませんが、連携計画策定を平成21年3月にした後、公共交通にはこのような変化があったよというよなことを、できる限りあげていこうということで、今準備をさせていただいているものを、資料としてつけております。こちら7ページにつきましては、北条鉄道さんの駅舎及びその周辺整備をされたことですね。イベント列車を開催されておることとか、その他利用促進のよなことされておりますよというのを上げさせていただいております。

8ページにつきましても、その他の利用促進ということで上げさせていただいております。

9ページにつきましては、コミュニティバスのねっぴ〜号のダイヤの改正をどのように行っているかというよなことを上げさせていただいております。こちらにつきましては、その次のページにイメージ図も用意させていただいております。もともと市内を巡回にしておった、丸く回ってとったものを変えたよとかいうことを、ビジュアル的にわかりやすいくということで表示をさせていただいております。

11ページにつきましては、はっぴーバスのこれまでの行ってきた懇談会ですとか、ダイヤの改正とかを時系列で並べて紹介をさせていただいております。このよに、前回の計画策定後どのよなことがあったかというよなことを集めて、実際にご議論いただく場にはできるだけ提供していきたいと、考えております。

その次のページ、12ページにつきましては、連携計画策定後の人口や利用者数の変化といったものも今回データとして提供できるということで、今の時点で提供できるデータの一つということで見ただけならと思いますが、人口の下がり続けておるなというよなあたりを見ていただくということになってしまいますけれども、こういうよなことも踏まえて、計画の策定をしていきたいと、現在把握できる情報を次のページ以降も表示させていただいております。

その隣、13ページにつきましては、北条鉄道の乗車人員の推移、こちらの北条鉄道さんから提供いただきましたので、参考に上げさせていただいております。

その下につきましては、コミュニティバスの乗車人員の数字ということで、こちらのほうもデータがそろっておりましたので参考に表にさせていただいております。このよな情勢の変化といひますか、こういうよな資料等あわせてご提供をいたしますので、次期の連携計画を策定する上で、検討いただけたらと考えております。今回十分なものではございませんが提供をさせていただいております。

最後、14ページにつきましては、その検証の方法というので、どのようにして総合的な評価をしていくかというよな概念をちょっと書かせていただいております。1つはお手元にお配りしております前回の連携計画、後のほうには事業部プログラムということで、具体的にどういうプログラムを行えばいいのかというよなことを挙げておりますが、それごとに検証していったらどうだろうかという考え方、もう1つは公共交通の利用者数の変化から見た検証ということで、路線別の利用者数や駅、バスの乗降者数の推移等、この数字的な面からの検証もあわせて行っていきたいと考えております。そしてそれをあわせて、総合変化ということでご検討いただいで、連携計画をよりよいものを新しく策定できたというよに考えておるところです。

ちょっと今回につきましてはイメージの提示というよな形になってしまっておりますが、このよな方法で改定作業を進めたいと考えております。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長 はい、ありがとうございます。協議事項4につきましてご意見、ご質問をいただければと

思います。よろしくお願ひします。はい、お願ひします。

○G委員 当日配布資料の10ページに、コミュニティバスの路線モデルがあるんですけど、滝野・東国正のこの分なんですけど、前の会で私にちょっと提案したんですけど、宇仁地区の青野町とか小印南町というものは県道がありながらバス、公共交通機関がないんですね。ところが、このバスは根日女の湯の入口まで来ておりまして、そこから北上をしまして市川滝野線へ入って入っているんですね。これはこれでいいんですけど、朝、回送バスというんですか、そのバスは青野町を通過して東国正へ行きまして、そこから運行してはと思うんですね。それだったら、回送するルート上の青野とか小印南町を走っておるんですから、そこで利用をしていけば非常に効率がいいんじゃないかと思うんですけど、そのようよ、やっぱり弾力的に今町内を発しているバスは回送で走っている。しかしそれは乗ることができないということですから、回送バスを乗れるように変更することはすぐ実行できることじゃないかと思うんですけど、その辺どうでしょうかね。

○議長 事務局、いかがでしょうか。お願ひします。

○事務局 そのルートと、あとダイヤの関係もあるんですけど、いまおっしゃっているその意図はよく理解できますので、ダイヤ改正、その24年4月1日のときにはそういう形はとれなかったんですけども、今後見直すべき要因というのが、ここ一、二年から二、三年ぐらいですかね——の間にその他の社会情勢の変化がいろいろとあろうかと思ひます。その中で考えていくようになろうかと思ひます。

要は、現在の国正行きの分と、大和北条線とかが北部のほうの幹線的なルートになつてはいるんですけども、青野ヶ原病院の移転のことであるとか、高校の学区再編のことでありまして、あとはっぴーバスのかねてから議論になっております北条への話というようなところを考えていく日がもう近いうちにあることは間違いございませんので、その中で当然見直すようなことが生じてこようかと思ひますので、今後の中でそれが現実に対応できるのかどうかというあたりを詰めていくことになろうかと思ひます。

○G委員 なぜこう言うと言ひますと、滝野までバスが走っているときだったらそういうことはちょっと無理だと思ひますけど、この国正へ行つてくるバスは、国正でUターンするバスなので、だから青野町、小印南町で乗つてそのまま国正まで行つて、そして北条まで来れるんですから、それは簡単にできると思ひます。しかし、なぜそれを言うかと言ひますと、例えば年寄りの方ですね。お年寄りが利用するということなんです。別にそれは時間帯を急いで行かないかとかいう話じゃないんですね。足がないという問題なんです。それは、便数にかかわらず、例えば朝乗つて昼、夕方になつてもそれはもう私はいいいんじゃないかと思ひます。だから、せつかく回送バスが朝走つてるといふものを見ながら、これに乗れないといふのはおかしい。

今、事務局の話をお聞ひすると、これは総合計画の中で考えていくということなんですけど、総合計画全体の考えはやっていただけたらいいんですけど、すぐに解決できるようなものといふのは、個別の話として一つ一つつぶしていいかな、これ全体をやつてその中でと、してると、なかなか前へ行かない。ましてやこの会合と年に2回ぐらいですよ。だから1年ぐらいすぐ済んでしまふんですよ。もっとピッチを上げた問題点の改善をしていただきたいと思ひますね。

○議長 一回検討いただひて、今おっしゃつてるのは今あることができるかできないかといふ、割ともしかしたら簡単にできるかもしれないし、できないならそのできない理由があれば、またそれをちゃんとできるようにするためどうしたらいいかといふことですね。ご検討いただひて、また報告いただければありがたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○G委員 もう1点ちょっとお聞ひせたらうと、この4月1日の老人会の会員数といふのは1万1,

700ぐらいおるんですね、65歳以上が。そして、後期高齢者というのもおると思うんですが、加西市の少子高齢化の進展の中で高齢者の場合、特に後期高齢者の人たちのウェイトが増えてきておる。

この問題をどのようにとらえるかということなんですが、身近な話をしますと、夫婦で今だったら買い物は自動車でするんですが、だんだんどちらかが運転ができない状況がこれから増えてくると思うんですね。だから、その辺をしっかりとらえておかなければ、独居老人という人で元気な人はいいんですが、ある程度しか動けない、そういう人たちに対する公的な交通手段をどのようにしてやるかということは、非常に老人会としましても大きな問題やと思うんですね。

だから、先ほどもD委員のほうからありましたけど、いわゆる国あるいは県の助成というものが、輪っばが、はまってるのかどうか知りませんが、そういうものの使い道もいろいろ考えながら、F委員がおっしゃったようないわゆる個別対応のタクシーであるとか、そういうきめ細かなものをぜひ次の機会は検討して、ある程度の話の前に進めてほしいんですね。だから、ざくっとしたような話を余りしていてもこれは解決しませんから、だからそこは一つ事務局のほうで、そのコミュニティバスがいいのか、タクシーがいいのか、いろいろそういうことを検討していただいて、我々はその状況でもって判断がしやすいような会議といいますか、そういう場をつくっていただきたい、このように思います。

- 議長 はいありがとうございます。今のご意見はまことに結構大事だと思いますので、次の連携計画を見直すときに、連携計画の見直しについては十分わかりやすくお伝えするということが大事だと思います。ぜひそういう計画にまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。
- 専門委員 ちょっと教えていただきたいんですけども、住民にとって使いやすい仕組みをどうやってつくっていくかということはもちろん第一義なんですけども、それに対してどうやって採算面で維持可能な形にしていくかということもやはり大事で、そうだとするとさまざまな補助金というのものも活用してということになるかと思いますが、先ほどE委員さんからお話がありました何事業でしたか。総合共同事業、その事業については利用促進等々と組み合わせると何か地域性の要件も少し見直すというようなこととお話しがあったんですが、あれはどういうことなんでしょうか。
- E委員 今までのコミュニティバスで、再生法のと看補助をしたものはそのまま補助制度のフィーダーとして位置づけられているんですけども、それよりもさらに前からやっているコミュニティバスについては市がもう既に負担をしているので、つけかえはできないということで、その新規性がないと意味で断ってきたのが、いままでの補助金の制度です。ところが、地域の方と一緒にあって、じゃバスを盛りたてていこうじゃないかとか、頑張つてよくしていこうじゃないかという取り組みを一緒になされるのであれば、今まで市が補助していたものは、新規性がないということで補助をお断りしたものを、新たにフィーダーの中に入れてもいいですよという、これを今年度つくつたということで、随分前から走っているコミバスの救済的な色彩がちょっと強いものでございます。
- 専門委員 救済というよりも、必要性を感じて自治体独自で走らせたいところには手助けはせずに、してこなかったところには手助けをしましょうという、どちらかというとな逆転の話だったのが改善された。
- E委員 そういうことです。
- 専門委員 そういうことでよろしいですね。

それから、空白地域のお考え方なんか少し変わるように聞いていますが、公共交通がない地域ということの解釈も少し変わるように聞いていますが、そうではないんですか。

○E委員 まだ具体的な指針は出てないです。

○専門委員 多分何か国交省の資料なんかにも関連する記述なんかはありますね。

○専門委員 交通空白地域の考え方はですか。余り今の段階で具体的なものは出てないんですけど、ただ、いままで従前であるとしてもなかなか運用しにくいというご意見がたくさんある中で、一定見直しをしていくという報道等はあるんですけども、ちょっとまだごめんなさい、今の段階で具体的に出せるものがないので、出せるようになった段階でお話は持っていきたいと思えます。

○議長 ありがとうございます。ほかにご意見ご質問。Fさん。

○F委員 すみません、つけ加えないけません。先ほどG委員のお話でございました後期高齢者の足の確保をどうするかということなんですけども、この加西市内においてその交通系統図、この図面を見ましてもどうしても着眼の主流が北条地区をキーとして、そこへどうして行くか、どうつなぐかというのが大前提のような設計になっております。ところが、本当の交通弱者、高齢者だけじゃないんでしょうけども、やはりこれから問題なります後期高齢者の免許問題につきましても、その人たちは本当に交通弱者がいきたいところは北条地区の中心だけじゃないんですね。やはり、近くの買い物店であったり、近くの開業医にあたりするわけで、決してそれをすべて路線網が結んでいるとは言えない。じゃ、本当に困っている人にどういう手法があるのか。これは次の課題の中で必ず入れていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長 実態はとらえないと何とも言えないですね。

○専門委員 いいですか。ちょっと中身の話に入ってきてしまうのかもしれませんが、例えばそういう移動の実態というのがどういうところにあるのかというのは、タクシー利用なんかを見てると路線バスで結べてないところでこういう利用があるんだというのは、多分よく出てくるはずですよ。ですから、そういう実態なんかをお知らせいただくことで、我々がなかなかつかめていないような移動の実態、それも特に人口の少ないところへ行きますと、営業所に行ってタクシーが1台だけみたいところだってありますし、それからだれがいつどこへ行くのか、もう運転手さんは全部知っておられるというようなこともありますので、そういうものもあわせて、あるいは原始人会でやっておられるようなそういう詳細な調査も含めて、だれがどこにどういうものがあるかというのを、やはりみんなできちんと押さえておく必要があるだろうなというふうに思いますし、それからそれに基づいてFさんが最初にご提案されようとした、控えられましたが、されようとしたいろいろなやり方というのがあろうと思いますね。

この協議会というのは利害対立、調整の場ではなくて、それぞれの専門の立場から、こうやればうまくいくんじゃないかという知恵を出し合う場ですので、ぜひそういうおっしゃったような形で、こんなやり方もありますよ、こんなやり方もありますよというのを、タクシー業界の方もそうですし、路線バスの方々もそうですし、いろいろみんなで知恵を使用出し合っているものができればいいなと思います。

○議長 はい、ありがとうございます。ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。

○G委員 最初に議長のほうから話がありました。いわゆる、交通とまちを生かす、その関連の話です。私もこれ非常に大事な話だと思っているんです。私の意見をちょっと言わせてもらいますと、きょうの資料の12ページ、13ページのデータを見ますと、特にこの北条鉄道を見ますと、いろんな努力をされておるんですが、30年間乗車人員というのは変わってないんですね。30年。こ

れからもこれ、こういう言い方をしたら失礼かも知れませんが、変わらないと思うんですね。

そして、その下のコミュニティバスの乗車人員、これも、だんだん下がってくる。したがって、きょうの議論というものはいわゆる弱者をどうしていくかという非常にピンポイントの形でずうっと話が進められている。これはこれで大事なことです。

じゃ、最初に議長がおっしゃったように、じゃこれ人口増という問題からこれをどうとらえるかということ、一つの話題を提供するために申し上げますと、やはり地域の価値を上げていく、地域の価値を上げるのはどうしたらいいかということですが、加西市の場合というのは農業王国、いわゆるため池が何千もあるようなところなので、その農業というものを中心に、外にPRをするようなことを本格的にやらなければいけないんじゃないかと。いろんな話が出ながらだれもそれをやらない。

具体的に言いますと、兵庫県のいわゆる農林水産の施設が常吉にありますね。農業の大学がありますね。そして、最先端のバイオを含めた研究もなされて、大きな牧場を持ってる。そして、その神戸大学の農学部もあります。そして、この辺で一番お米の出荷量が多いと思いますJAみらいの本店があります。こういう農業に恵まれた地域であって、そういう施設が集積してるんですね。ここをどのように価値を上げていくかというの、私は行政の1つの大きな仕事だと思うんですね。きょうは人口増の方がおられるということなので、その辺のいわゆる連携をとって、どのように農業というものをほかから関心を持たすかということの仕組みを考えていく、いわゆる地域資源を生かすと、これが1点ですね。

2つ目の問題は、今、市長が実行委員長になられてやっておられます播磨風土記1300年の記念事業をやりましょうと。これについては、周辺の市長さんも賛成だということで、加西市を中心に動いておると。これは地域の活性化の絶好のチャンスだと思うんですね。だから、この2年間の播磨風土記1300年のイベントをやりましょうということを、将来の加西市の人口増に結びつけていくために、この2年間が一つの勝負だと思えますから、その内容でもってぜひ恒久的ないわゆる播磨風土記の記念館を、玉丘古墳の近くに建設をして、そしてそこに人が集まるような仕組みを考えたらいいと思うんです。

少し話が長くなりますが、先般鳥取の砂の美術館へ行きますと、鳥取市の職員の方が自慢されておりましたね。これ幾ら人が来るんですかって言いますと、砂丘の関連があるとは思いますが、53万来るといいますね。53万といます。52万か3万といましたら、入場料が600円という3億ぐらいになるんですかね。これは建設費が幾らかかったんですかといったら7億ですとっておりました。だから、鳥取市の事業としては非常に成功していると、こうおっしゃいました。

言いたいのは、そういうふうに玉丘古墳というものについて、毎年いろんなところで話がされながら、具体的にその価値をどう上げていくかというのは何もされてない。そしてそれはお金がないとか財政がないとか、こういう話にすぐ行ってしまいうんですね。だからここを私が今2つ言いました。これをいかに打破するかということが、北条鉄道の活性化につながっていくと思うんです。

北条鉄道は、新聞を見る限りいろんな方がボランティアで駅舎の改善とか寄附を募っていろんなことをやっておられる。そして、その周辺もいろんな飛行場跡とか、そういうことをいろんな盛り上がりを見せておる。そのように盛り上がったものが、いずれこのままでは消えていくと思うんです。そのために、北条鉄道の乗車人員を見ましてもほとんど変わってない。いろんなイベントをされても変わらないということは、もう一つ大きな何かが必要だと思うんです。だから私がいま申しましたその2つのことをやっていくと、北条鉄道も変化が出てくる、神姫バスにも変化が出てくるだ

ろう。

もう1つ無理な話をしませんが、この北条鉄道には昭和30年代にはSLが走っておったんですね。だから、そのSLの復活ということも非常に大事なことなので、SLというのは物すごくファンがたくさんおる。だからそのようにSLというものを思い切って復活をしようと。そんな金を出てこないということになれば、私は基金をつくったらいと思うんです。北条鉄道にSLを復活しようと、そして基金をつくってそういう計画のもとに住民参加のような形で、住民が出資するような形で、北条鉄道を本格的にやるべきだと。

私は、北条鉄道は三セクだから非常にやりやすいと思うんです。JRの軌道にSLを走らせたってそれはできませんが、これはJRとは切り離しておるんですから、そこを全国に誇れるような鉄道、SLを走らせていけば、JRも神鉄もこちらに注目してくると思うんですね。だから、JRとか神鉄にお願いする話じゃなくて、地域の人が全国的にいろんな基金を私は集めていいと思うんですね。だから、これはひとつ副市長もいろいろ検討していただいて、そうすればこの公共のきょうの議論というものをもう少し右肩上がりの議論になっていくんじゃないかというふうに思います。

○議長 いろいろご提案をいただきましたけども、ありがとうございます。そうやなと思うのと、いやちょっとというのと、私は、両方今お聞きしながら感じましたけれども、いろんなご意見をいろんな機会に言っていただくというのは、まことにありがたい話ですから、ぜひ委員の皆さんも、時間も限られてますから、この場では難しいということもあれば、ぜひ事務局の皆さんにいろんなご意見にお伝えいただければありがたいというふうに思います。

多分、事務局の皆さんは目下の関心事は、今のG委員がおっしゃったようなちょっとスパンの長い話ではなくて、目の前のことをどうしようかということで一所懸命されてると思いますので、ちょっと市全体で今話を受けとめていただいて、議論していただき、できるものはやっただくし、いろいろな知恵についてもまたご意見をいただくようなことで、できるだけまちがよくなるような、社会的な人口をどういうふうに持つてくるかということが大事やと思いますので、そのときにどこに来てもらうかというのを次に同時に考えておかないと、まちの構造、これから50年先のまちの構造が悔いのないような形になっていくためにも、社会増をどう受け入れていくのかということ考えていくというようなことも含めて、今ご提案いただいたのではないかと思います。

ほかにご意見ご質問ございますでしょうか。ご意見につきましては、ぜひいただけたらありがたいと思います。

ちょっと私も今北条鉄道の話が出たので、今G委員から余り変わらへんという話ですけども、変わらへんことは実は非常にすばらしい状況なんですね。最近、私は鉄道とかバスでえらい赤字で困ってるとか、利用者少なくて困ってるところで話をするとき、北条鉄道がよくやっているというのを事例として出させていただいています。それは法華口で駅舎を地域の人の寄附で、手洗いもそうですね、駐輪場もそうですね、名簿が貼ってありますよね。ああいうふうに行行政に何でもやってくれやという話じゃなくて、自分たちでやっていこうよ、パン屋さんもやっていこうよというようなことで、駅の魅力化して行って、しかも利用者もかすかにふえているといひますね。本当にほかの鉄道、バスというのは右肩下がりのところが多いので、この実績は非常によくやってるよという事例に出させていただいています。

多分自分のまちのことは余りよく見えないことが——よく見ないというか、もっとほかにもいいところがあるん違うかという見方が多いのかもしれないかもしれませんが、そういう点でいうと非常によくやられている事例に上げてても恥ずかしくないな、と。今でも十分自慢できるので、皆さんどんどん自慢していただけたらいいのではないかしらというふうに思います。

協議事項4でございますけれども、ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。

○専門委員 ちょっとよろしいですか。これはもう連携計画の見直しの中には入ってしまうのかもしれないんですが、配布いただいた21年3月の連携計画の目次を見ますと、最初の第1章のところに人口の状況というのが出ているわけですね。第1章の第1節の2のところに人口の状況、あるいは高齢者の現況というのがあるんですが、先ほどG委員がおっしゃったように、これから10年経つとどう変わるかというのはかなり大きく変わってくるだろうと思います。これも人口の数だけではなくて、先ほどお話したどこにどういう方がおられるんだろうかと、それからそれを踏まえてまちをどういうふうに、あるいは地域の姿をどういうふうにつくっていくかということが、公共交通の計画にも大きくかかわってくると思います。将来を見越した計画をするということ、それから将来をある意味誘導する部分も、議長がおっしゃったように出てくるだろうと思いますので、できれば人口、あるいは高齢者の状況を含めて、将来まちとしてどういうふうな絵を描いておられるのか、あるいはどうしたいと考えておられるのかという、現況ではなくて将来像をある程度出していただく。

例えば、2ページを開けますと、下に図がありまして左のグラフは年齢構成別の人口の推移ですよ。右に地域別の人口密度は、これは19年のデータがありますが、これが左の年度の進行に伴ってどう変わっていくんだろうかといったようなことがあって、初めて具体的な計画につながっていくんではないかなと。

これ実は、市役所の方、あるいは市長さんにしても、どこに人がいなくなるんだろうということを書けというのになんか近いことになりまして、大変難しいことだろうと思いますけれども、でもやはり将来どうなるのかということある程度把握しておかないと、我々はきちんとした議論ができないだろうというふうに思いますし、考えない計画って一体何なのかということなかなか説明もし辛いですので、ぜひそういった見通しというものをきちんと出していただいて、それに基づいて検討ができればというふうに思います。これはお願いします。

○議長 はい、ありがとうございます。Dさん。

○D委員 ただ、客観的な今の統計から言うと、もう非常に悲観的な人口の状況というのは、もうあらゆる自治体がそういう状況になると思うんですけども、それに対して今加西市は何とか5万人都市というのか、今の機能をしっかりと守っていこうという形でやっているんですけど、そういう中で現実と理想の中で、どう位置づけるというのはどの辺にそういう目標置いたらいいのかな、というのは感じるんですが。

○専門委員 まずはこうしたいというのを出していただくということではないかなと思います。

○D委員 なるほどわかりました。

○議長 人口は減少すると思うんですね。これはなかなかとめられない。特に自然増、自然減になりますからね。問題は、人口密度をどういう維持していくか、地域をどこに集中させるかというのは、これは都市の経営の問題でして、非常に重要な問題になってくると思いますから、その地域のメリハリをどうつけていくかということですね。多分、これは交通の問題だけではなくて、本当に地域の施設をどう張りつけるかとか、それから税収の問題とか、固定資産税をどうふうになってるとか、法人市民税をどういうふうになっているとか、そういう話も含めて人口密度をどういうふうに維持してくるかというのを考えられるというのがベースなんじゃないかなというふうに思いますね。

○専門委員 そうですね、ですから先ほどF委員がおっしゃったように、市に住んでいる住民全員が北条町のほうに行くわけではなくて、やっぱりそれぞれのところの核になるようなところがあるだろうと思います。じゃそれはどういうふうにまとめていったらいいんだろうかというような、ある

いはどう変化していくのか、あるいはそこにどのような機能を配置していったらいいんだろうかと、人はどう動くんだろうかということがすべて関連してくるだろうと思いますので、おっしゃったように必ずしも北条町を中心とした市政運営だけじゃないですから、それについてまちとしてはこういうふうな住まい方ができるような地域にしたいという、そのねらいをまず出していただいて、じゃ次はそれをどういうふうを実現するという話になろうと思いますが、まずはそれを出していただく。

あるいは、そういうことは当然議会でもいろいろご議論いただくことだと思いますので、それとこの議論をきちんとリンクさせて進めることが大事かなと思います。

○D委員 はい、わかりました。

○議長 すごくいい議論になってきたので、ちょっとあと一言だけつけ加えさせていただくと、今回の連携計画もそうなんですけども、交通の果たす役割ってすごく大きくて、うまく交通の機能を配置する、ここでは総合評価の視点も最後に出てますけども、それをすることによって例えば医療費が下がるとか、これは例えば巡回するいろんな保健師さんとかのコストも分散したらごつつかかるけども、集まったら安くなるとか、それでしたら地域に集めるとか、それから通学圏をどうするかというの、交通の問題と非常にかかわってきて、学校の配置とか施設配置もうまく交通のネットワークをつくと安くなるかもしれませんね。そうすると、他のものに投資するよりは、交通にお金を入れるほうが実は結果としてはいい地域のマネジメントができるかもしれないというようなことも視点に置いて、こういう計画を見ていくということが大事で、ですから補助金がたくさん出てるさかいに具合が悪いということじゃなしに、やめたらもっとほかのところでお金を出していく可能性もありますから、全体の経営という見方をして、交通のことを見ていただけたらありがたいなというふうに思います。Fさん。

○F委員 先般も加西南部のタクシーのオーナーと話したんですけども、あまり出してタクシーの仕事がなくなったら困るんですが、南部の人は普段病院へ行くのにどこへ行くかという、決して加西方面だけ行くんじゃないで、近くのかかりつけのお医者さんへ頻繁に行って、診察と同時にお薬をちょうだいして帰ると。そういうようなパターンが加西も集合体ですから、加西地区なり、また北条地区なり、また九会地区なりいろいろあると思うんですね。やっぱりそれぞれの近隣エリアが、一つの小学校区になるのかどうか知りませんが、もう少し広い範囲であろうと思います。

この中で、主要な生活圏での、動きというのを、やはり一番高齢者は求めておられるわけであって、その中で最低限の買い物と必要な医療とかかかれれば、これは逆に田舎のことなので、健康体を維持しやすいんだと。年間決められている健康診断を受けながらとそういうことなんですね。1つのリズムになるんじゃないかなと思いますね。決してもうすべてを集中、持ってきて真ん中で全てをやって、持って帰るといのはいまからの時代じゃないと思いますし、そのあたりも踏まえた1つのD委員さんの担当やと思うんですけど、お考えいただけたらそれぞれの地区でニーズが生まれると思いますし、逆にその地区でそれぞれの業者が働くと思いますので。

○議長 そういうデータを出していただきたいというのが、今専門委員が言い合った話ですので、感覚でお話を今いただいて、それはそれで大事なんですけども、ぜひまたデータなりがあれば教えていただくとより皆さんと一緒に議論ができるということになりますので、ぜひご協力をよろしくお願ひします。

協議事項4、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

○Hオブザーバー オブザーバーという立場で、積極的に意見いうのはちょっとはばかられるんですけども、ちょっと参考になるかなと思いましたので、こんなパンフレットをお手元に置かしてい

ただいているかと思ひます。ちよつとだけ説明しますけど、県のほうで公共交通の計画をつくってまして、これが言いたいんじゃないかと、皆さんでご議論をお伺ひしていると地域の活性化ということに非常に力を入れていかないかんといい中で、この計画の中で県としてはもう少し大きな視点ですけども、北播磨というよふな視点で交通特性をいろいろまとめたデータを整理しています。移動の長さによつてという交通手段がとられるだらうかとか、観光客人の移動手段はどんなだらうかとか、どのよふな地域から来られてると推察できるだらうかといふのは、種々データをそろえてますので、恐らく参考にしていただけるかと思ひます。またお問い合わせいただければ、提供できるものをがあるかと思ひます。ご参考までに。

○議長 はい、ありがとうございます。ぜひ県の皆さんもご協力をよろしくお願ひいたします。ほかにご意見、ご質問ございませんか。

○専門委員 すみません私ばかり。今の議論なんかも含めて、やはりこの協議会といふのは公共交通全般、その周辺にある住民の暮らしも非常に密接に関連して、かつかなり幅の広いことを検討する必要があるといふことだらうかと思ひます。当日配布資料の15ページのところに協議会の規約があるんですね。これを見ますと、これはほかの協議会でもちよつとお話したので、E委員さんなんかはご存じだらうかと思ひますが、何か連携計画を立てるための協議会のように見えるんですね。それはそれで国の法律、あるいは事業のもとでそれに基づくものを検討するといふのは必要だらうかと思ひますが、本来やはり加西市として公共交通を主体的に考える場所といふのはここだらうかと思ひますよね。ですからこの設置なり所掌事務なりといふのは、もう少し考え直してみてもいいのかなかと思ひます。新しく連携計画といふか、ひいては公共交通計画を策定することでもありますので、地域公共交通全般に関して所掌できるよふな形になっていてもいいのかなか。これは私が今個人的に思つたことを申し上げるだけです。また追つて検討いただければといふように思ひます。連携を見直す上でも必要なことかなかといふふうにかと思ひます。

○議長 はい、ありがとうございます。これは事務局が受けとめるといふご意見といふことで、ありがとうございます。ほかにご意見ご質問ございますか。よろしいですか。

そしたら、協議事項4につきまして皆さんからのご審議の上で、これについても認めていただくといふことでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○議長 はい、ありがとうございます。

そしたら議題は以上でございまして、あとはその他ということになります。ちよつとその他の前に、私もずっと不思議に思つてることが一つありまして、きょう当日配布資料の4ページに、先ほどから国の制度といふことで地域共同推進事業計画といふ話が出てますよね。これは実は専門委員が教えてくださるまで、実は加西市の方もご存じなかったといふことですね。せつかく県の方、それから運輸局の方も来てくださつてるので、たまたまなかどうなかよくわかりませんが、できたら意思疎通をいろいろ図っていただけるとありがたいといふことで、これからも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

【その他】

(1) 次回協議会の開催について

○議長 それ以外の事項がありましたら、事務局のほうよろしくお願ひいたします。

○事務局 議長、ありがとうございます。各委員の皆さんにつきましても、いろいろご意見をちょうだいしましたこと、感謝いたします。

その他といたしましては、次回協議会の開催ということの予定なのですが、今後現行計画の見直し評価を進めながら次期連携計画の策定ということを進めていくわけですが、おおむね秋ごろ、10月から11月ぐらいに次回のこの協議会を開催できたらというふうに考えておりますので、また追って日程のほうとかご案内させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、あと特にこちらのほうからはございませんので、これをもちまして本日の会を終わらせていただきたいと思ひます。どうもご協力ありがとうございました。

○議長 どうもありがとうございました。

了